

会議録（概要）

会議名称	令和4年度 第1回愛西市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会
開催日時	令和5年2月6日（月） 午前10時から正午まで
開催場所	愛西市役所 北館3階 災害対策本部兼会議室
出席者	別紙のとおり
欠席者	原口浩美委員、川合良司委員、丹後茂委員、坂井雅彦委員、安田憲竹委員
公開・非公開	公開
傍聴人の数	0人
審議事項等	<p>●審議事項</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金（令和3年度事業分）を活用した事業に関する効果検証について</p> <p>(2) 第2次愛西市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る基本目標の数値目標及び各施策 KPI の現状について</p>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1-1 地方創生臨時交付金を活用した事業に関する効果検証について（令和3年度実施分） ・資料1-2 評価の方法 ・資料2 第2次愛西市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について ・推進委員会配席図 ・委員名簿 ・第2次愛西市まち・ひと・しごと創生総合戦略冊子 ・流域治水施策集 ・木曾三川下流部広域避難実現プロジェクトパンフレット
審議経過	別紙のとおり

愛西市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会委員

役 職	氏 名	備 考
会長	岩崎 恭典	
	大坪 祐紀	
	日比野 好晃	
	原口 浩美	欠席
	安田 清時	
	水野 善弘	
	加藤 憲治	
	川合 良司	欠席
	丹後 茂	欠席
	梶村 繁夫	
	山田 慎太郎	
	坂井 雅彦	欠席
	水野 秀俊	
	青木 啓	
	安田 憲竹	欠席
	鷺野 則美	
	土赤 摂津子	
	神田 善郎	
	川上 もと子	
	森 三夫	
	早川 隆司	

職務のために出席した職員

役 職	氏 名	備 考
市長	日永 貴章	
副市長	鈴木 睦	
子育て支援課長	長谷川 努	
産業振興課長	清水 直樹	
都市計画課長	佐藤 政樹	
企業誘致課長	藤澤 寿章	
学校教育課長	猪飼 政和	
スポーツ課長	伊藤 義幸	
健康推進課長	服部 芳樹	
社会福祉課長	田口 貴敏	
市民課長	伊藤 静	
市民協働課長	丹羽 久美	
総務課長	佐藤 博之	
財政課長	堀田 毅	

事務局

役 職	氏 名	備 考
企画政策部長	西川 稔	
企画政策部参事	伊藤 孝一	
企画政策部経営企画課長	井戸田 悦孝	
企画政策部経営企画課課長補佐	渡邊 典夫	
企画政策部経営企画課主任	東山 祐佳	

審議経過

発言者	内容（概要）
会長等	<p>1. あいさつ</p> <p>2. 会議録署名委員の指名 議事録署名委員：梶村 繁夫</p> <p>3. 審議事項 (1) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金（令和3年度事業分）を活用した事業に関する効果検証について</p>
事務局	<p>(資料1-1・1-2について説明)</p>
議長	<p>国からの臨時交付金を使って愛西市がやった事業の効果について、それぞれの課が内部評価をした。多くの事業が総合的評価で「A」と判定しているが、唯一、「申請書作成等システム導入事業」のみ「B」となっている。</p> <p>交付金事業の評価は全国の自治体でもあまりやっていないチャレンジングな事業であるため、忌憚のないご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>プレミアム商品券について、どうしても大型店で利用することが多く、私が住んでいる地域でも、ほとんどの方が同様に大型店で利用している。小売店でも使えるが、利用価値としてもったいない。</p>
職員	<p>現状、プレミアム商品券26枚中、14枚は中小店専用券であり、12枚が大型店と中小店の共通券となっている。今後このような事業をやっていくにあたって、検討していきたいと思う。</p>
委員	<p>全体的によくやられていると評価している。</p> <p>二点質問したい。執行額と充当額に少し差があり、その差の根拠として、一般財源や国・県補助金を使ったという考え方をしていると思うが、その辺りの考え方はどうなのか。</p> <p>また、どの事業も非常に良いという評価をしているが、評価のやり方が一番重要だと思う。サンプリングの仕方などで結構変わってくる可能性があるため、こういった評価をされたのか。</p>
事務局	<p>執行額と一覧に記載されている財源の内訳部分の差額については、市の予算を充当している。なぜこの差額が生まれるのかと言うと、国から配分される額を余すことなく利用するために、計画的に配分額を超えるように予算を組んでるためである。</p> <p>評価については、担当課にも市民のご意見が届いているため、ご意見</p>

	<p>も踏まえた上で、担当課が事業について効果的であったなど、点数に評価させていただいているのが現状である。</p>
委員	<p>事業の評価について、常に冷静に見るためには、そのやり方がいけないとは言わないが、もう少し考えていただいても良いのではないかという気はする。どういった人たちからいただいたのかというところが最も重要であると思う。</p>
議長	<p>臨時交付金は全て使い切るために、市が単独で予算を上乗せしているという説明があった。何に使うのかということについては、ほぼ全国で同じような形で使えるため、なかなか評価もしづらいし、冒頭で申し上げたように、他の自治体で市民の皆さんに評価していただいているケースは他に知らない。それだけに、評価の仕方をもう一度見直しておく必要がある。</p> <p>実際のところ、交付金ではなく100%補助金であると思う。使い道が限定されているお金と言ってもいいかもしれない。交付金であれば自由に使えるということが建前である。</p>
委員	<p>今回の評価で唯一「B」評価となったデジタル化の申請書作成等システム導入事業であるが、達成度が「2」ということで、非常に低くなっている。これはマイナンバーカード等を利用することとなっているが、愛西市のマイナンバーカードの発行件数はどれくらいなのか。</p>
職員	<p>マイナンバーカードの交付率は、令和5年1月15日現在で、55.4%となっている。</p>
議長	<p>県内の平均値はどれくらいなのか。</p>
職員	<p>県内の平均値はもう少し高くなっている。</p>
議長	<p>三重県で最も交付率の高い自治体はいなべ市であり、6割を超えている。マイナンバーカードの普及のために数人集まっている中にも出かけているようであり、そのような努力のおかげで交付率が6割を超えている。</p> <p>マイナンバーカードの交付率が国からもらえるお金の額に関わってくるというペナルティを課されるようなことも考えられているという話もあるので、努力はされる必要があると思う。</p> <p>ただ、実際のところ、申請書作成等システム導入事業と今回の「B」判定の関係はどういうことなのか。</p>
職員	<p>申請の際、マイナンバーカードを使うことになるが、マイナンバーカ</p>

	<p>ードを持っていない方は利用することができない。</p> <p>マイナンバーカードを使って申請される方もいるが、今の状況としては、申請書の住所や名前が表示されるものの、細かい聞き取りは窓口でしなければならないという現状があるため、効率性が少し落ちるのではないかと思っている。</p>
議長	<p>申請書作成等システムは導入したけれども、改良の余地はあるということになるか。</p>
職員	<p>そうである。</p>
議長	<p>まだまだ運用する途中で色々と試行錯誤があるということが現状のようである。</p>
委員	<p>資料1-1に記載されている交付金の配分額について、民生費にあたる部分に交付金を充てているということが見て取れるが、今後は、小さなところからまとめていただくことが大事であると思う。また、市職員の苦勞が想像できる数字の配分であると思った。</p> <p>統計的な話であるが、7割以上を超えることは何かの作為がないと至難の業であるとのことである。愛西市の55.4%という数字は良い方なのではないか。ご高齢の方にとっては、要件が多すぎて非常に難しい。そういった部分を直さない限り、交付率の低迷は、愛西市だけの責任ではないと思っている。</p>
委員	<p>「B」評価があるものの全体的評価は高く、良いのではないかと。今後、事業をどうやって維持するのか。国からの交付金がゼロになるという話も出たが、それによって大幅に様々なサービスがダウンしないだろうか。</p> <p>市は色々な事業を推進しているが、維持していくことは大変である。いかに共助できるかということを考えていかなければならないと思う。</p> <p>今の評価は「A」が多いかもしれないが、今後のことを考えると、相対的に非常に難しくなってくる気がする。</p> <p>常日頃から市が広報等で共助意識などを醸成していかないと本当に大変になってくるという危機意識がある。資料などは非常によくできているし、立派なものであると思う。</p>
議長	<p>継続させていく事業、残念ながら打ち切らざるを得ない事業も当然出てくる。4月に「子ども家庭庁」が発足するので、子育て支援対策は国から結構補助が出てくると思われる。そうになると、そこにバイアスをかけていかなければならないと思う。今の段階で市長がお考えのことをご発言いただきたい。</p>

<p>市長</p>	<p>まず、評価のところは、恩恵を受けている皆様方にとっては喜ばれるような事業を展開していたと思うが、その恩恵を受けられない方々に理解していただけるかということが重要であると思った。</p> <p>今回、内部評価ではかなり良い評価が出ているが、それが本当に正しい評価なのか、今後どのように展開していくのかということを考えていかなければいけない。</p> <p>また、子ども手当拡充は既に我々が取り組んでいることであるため、もう少し各自治体がやっている事業を国でしっかりと子育てに充当していただければ、その財源をまた新たな施策に活かせると思っている。今後、いつ予算化されるのかということが非常に難しいところである。</p> <p>市としては、マイナンバーカードや免許証を使った手続きの簡素化をしたいと思っているが、最終的にはどうしても窓口に来た方の本人確認をしなければ、本当にそれが正しいのかどうかということが確認できないため、国の法律等がどのように変わっていくのか注視していきたい。</p> <p>最近では、ほとんどの方がスマートフォンを使われる。例えば、市の広報についても、スマートフォンで皆様方も見ることができる。日頃の色々な広報等についても、デジタル化を進めていくことにより、市民の方々に対し、意識づけをしていければ、市としても色々な手続きのデジタル化をもう少し進めることができるのではないかと考えている。</p>
<p>議長</p>	<p>評価の方法や色々考慮しなければならないこと、今まで各委員のご発言があったことも含めて、概ね外部評価の会議として、地方創生臨時交付金を活用した事業に対しての効果検証については、概ね妥当と認めるということを結論とさせていただきたい。</p> <p>(2) 第2次愛西市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る基本目標の数値目標及び各施策KPIの現状について</p>
<p>事務局</p>	<p>(資料2「基本目標2」の「施策2-1」の「ふるさと応援寄附金」に記載されている「6サイト」を「5サイト」に訂正する旨を報告した後、資料2について説明)</p>
<p>議長</p>	<p>KPIを見ていると、コロナで下がってしまっている指標もある。例えば、巡回バスの利用者が減った要因の一つには、コロナが関係していると思う。その一方で、あまり減っていない指標もある。令和7年に設定した目標値を既に超えている指標はどう考えていけばいいのか。</p> <p>例えば、資料2の1ページ目に記載されている「25～44歳女性の労働力率」は、既に目標値を超えている。これは人手不足が理由であるが、「非正規ではない雇用の割合はどれくらいなのか」といった次のステップに進んだ指標にしていくのか、それとも、「この数値をどこまで</p>

事務局	<p>上げていくのか」というような、目標値を再設定することをどこまで考えていけばいいのかということも、資料を見て課題であると思った。</p> <p>目標値が達成できている指標の取扱いについては、計画の最終年度に最終評価をさせていただく際に、目標値を上方修正した場合、すべて達成できていないという状況は、市としても避けたい。</p> <p>まずは現状の数字は残しつつ、さらに高みの目標を計画の中で持つのかということも考えとしてあるが、数字については残す形で考えている。</p>
委員	<p>私は工業団地に非常に興味を持っている。南河田工業団地が活性化しており、今度は弥富インターの近くにおいても造成を行っているという記載がある。企業数について、ロジスティックの建物のみの場合、雇用数が微増であるため、雇用の増加を愛西市の中で増やすことができるような企業を誘致できるとありがたい。</p> <p>製造業などの企業を増やすことは愛西市では難しいのか。就業率を高める意味でも、そのような企業誘致があると良いと思う。</p>
職員	<p>南河田工業団地は5区画誘致され、そのうち4区画が物流倉庫で、1区画が製造業となっている。5区画のうち、テナント企業が7社入っており、7社とも物流業ということで、実質的に南河田工業団地は製造業が1社のみとなっている。</p> <p>雇用数について、テナント企業側において南河田工業団地では約350人雇用されているが、愛西市内での雇用が現在10人から20人程度となっている。</p> <p>弥富インターの工業団地は、こちらも現在、開発の検討を進めている。40社くらいの問い合わせがあるが、9割が倉庫事業となっている。愛西市のネットワークや環境では、製造ということではなく、国道や高速道路を通じて内陸側に向けた物流業をどうしても企業側が目をつける。今後も製造業の進出を促していくが、立地環境上、どうしても愛西市は物流倉庫に視点がいくようである。</p> <p>それから、令和3年度の1月の段階における固定資産税は、南河田工業団地の方では建物と償却資産で約1億5,000万円であった。こちらは2企業立地している段階での税収であり、本年においては、5区画7社のテナント企業が操業しているので、固定資産税での税収もそれなりに見込まれていく。</p>
委員	<p>今朝の新聞では、2021年度の出生数が77万人と記載されており、その前年度が81万人ということで驚いた。非常に危機的な状況であるため、子育てにやさしいまちで人を呼び込むことが方法としてあると思う。</p>

	<p>基本目標4の「公共施設の延床面積」の指標数値が減少しており、利活用ということで、例えば人口減少により空き教室の増えた小学校の校舎の半分をベンチャー企業に貸す取組も方法としてある。</p> <p>物の利活用ということで、インキュベーターのようなものを作っていたきたい。愛西市は企業の創業を支援しているということを知るような形でやっていただきたいが、他の自治体でもこの取組の実施は難しい。ネットワーク環境も必要であり、ワンストップのショッピングとして地域に何が必要かということを考えてインフラを少し整備していただく必要がある。市の建物であれば自由度があるので、ベンチャーの育成に目を向けていただくと良いと思う。非常に小さな話であるが、大きく育つ可能性のあるビジョンではないか。</p>
議長	<p>「まちの活力を高め、将来につながるしごとづくりで『働いてみた愛まち』」という基本目標1に沿うような形でのインキュベーションの発想というようなことは、どうなのか。</p>
事務局	<p>現在、愛西市内の小中学校を今度どうしていくかという検討が教育委員会の方で進められている。それと並行して、市のそれぞれの担当の方でも建物のことも踏まえ、市全体の教育を地域としてどうしていくのかというような話し合いを始めている。実際、様々な意見が当然出てくると思うし、市職員だけでは新たな発想が難しい部分があるため、今の委員のご意見もあったということで、市職員も勉強しつつ、今後の市の方向性を考えていきたい。</p>
委員	<p>基本目標1の施策の中の「工業団地に立地する企業数」が気になる。新たに雇用された就労人数が少ない気がする。</p> <p>施策1-4の「25～44歳女性の労働力率」は非常に高いが、44歳という年齢はあまり関係ない気がするので、もう少し上げて良い気がする。</p> <p>製造業も今やロボット化などが進んでいるが、魅力があるので、愛西市にも誘致をしていただきたいと思う。働きたいときに働けるのが理想であると思うので、そのようなことを考えておられる企業がもしあれば探していただき、働きやすい企業が来ると良い。そういったことは検討されているのか。</p> <p>施策1-3の『「愛西市ぐるぐる農産物」のラベルを貼った販売農家数』について、主にレンコンをイメージされていると思う。農林水産省の「農福連携」という制度があり、まだまだ希少価値がある。愛西市の場合はレンコンが特産となっており、そこにスポットを当てて農福という観点を取り入れてはどうか。</p>
事務局	<p>今回のまち・ひと・しごと創生総合戦略においては、出産適齢期の女</p>

職員	<p>性の就業率という視点で令和7年度までいきたい。次期計画策定の際に、年齢をどのように指標として設定すべきか、この指標がいいのかどうかという判断もあると思うが、設定をする際には、当然、人口の移動もあるので、年齢の幅も考えていきたい。</p> <p>農福連携については、交付金として施設に関する補助、人材育成に関した補助をそれぞれやっている。また、補助の対象として農業法人に対する補助や社会福祉法人に対する補助がそれぞれある。農業法人は産業振興課、社会福祉法人は社会福祉課が担当し、それぞれ農業法人や社会福祉法人に情報発信しながら促しをしているという段階である。残念ながら実績としてはないが、人材不足のところを障害の方で補うというような発想もある。農業の強みを活かすというところで連携できるような情報発信をしていくので、今後も取組を続けていきたい。</p>
委員	<p>資料2の「施策1-3」の指標である『「愛西市ぐるぐる農産物」のラベルを貼った販売農家数』は平成30年度から個数が変化していないが、計画どおりなのか。</p> <p>「施策2-2」や「施策2-3」についても、数値的には計画どおりで、令和7年度に向けて取り組んでいくということであれば問題ないが、計画どおりにやられているのかいないのか非常に見えにくい。</p> <p>目標を達成している指標でも目標値は変更しないが、普通にやっても目標を達成している部分へ今までかけていたマンパワーなどのリソースはどこへシフトするのか。今までどおりマンパワーをかけて、さらに数字を上げていくものなのか、もっと注力していないところに人をおけるべきなのか、その判断はどう行うのか、もし考えがあるのならばお聞かせいただきたい。</p>
事務局	<p>市としては、大変ありがたいご意見として受け止めさせていただきたい。令和2年度以降、コロナという視点で見て、数字が下がったという指標もあれば、そうでなかった事業も当然ある。今回、委員の皆様のご提言にもあったが、事務局の方でできていなかったということはお指摘のとおりである。次年度の時には、そのようなことも分かるような評価の仕方を工夫したい。</p> <p>マンパワーの話について、単純に年度ごとに努力して令和7年度の目標値を超えるものもあれば、累計で超えていくという指標もある。特に年度ごとに努力して上がったり下がったりするものは、マンパワーを他に割くということが難しいと思うので、そのまま継続か、あるいは社会情勢によって同じ数字を保つということ自体が厳しいということもある。総合計画、行政改革の目標値もあるので、そのようなことを踏まえ、人事の裁量や内部のマンパワーの配分を管理職が考え、動いていくべきものであると思っている。</p>

委員	<p>『「愛西市ぐるぐる農産物」のラベルを貼った販売農家数』について、観光協会からも幅広く推奨品を出しているが、波及して効果があるかという、色々と問題がある。</p> <p>また、レンコンの関係で、観光協会においてもレンコン掘りをやっているが、非常に人気で、市外からの方に多く来ていただいている。</p> <p>それから、木曾川に並行して10km程度続く道を「レンコン街道」として愛知県より認定していただいている。愛知県からは認定書を1枚いただいたが、愛西市からも色々やっていただいている。なかなか知名度が上がらず難しい部分もあるが、愛西市としてはレンコンが目玉であると思っている。</p> <p>基本目標2の施策2-1「ふるさと応援寄附者数」について、令和3年度は極端に数値が上がっているが、何か理由があればお聞かせいただきたい。</p>
議長	<p>令和7年度は目標値であるため、それを遥かにオーバーして寄附者がいるということであり、設定の数値が低かったということかと思う。</p>
職員	<p>「ふるさと応援寄附者数」の令和7年度の目標値を700人という数値に設定したことについては、議長のご説明のとおりである。</p> <p>「ふるさと応援寄附」のインターネット上でのポータルサイトや返礼品の充実を図っており、とても伸びている。寄附金額についても、令和4年度は、1億円を目標に進めており、順調に伸びていると思っている。</p>
委員	<p>実績を上げていただくよう努力していただきたい。</p>
委員	<p>指標の数値について、例えば、セミナーの指標では回数が見られているが、実際何名集まったのか、また、企業訪問の指標では、訪問件数が見られているが、面談はどの程度やられているのか、どのような方と面談されているのかということ全てを示すと膨大な作業かと思うが、効果的にどうであったのかということは評価の中に入れるということも一つの方法としてありかと思う。</p> <p>また、基本目標4の高齢者向け施策の中に、「生涯にわたるスポーツ活動の推進」とあり、最近では、eスポーツが非常に取り上げられているが、eスポーツは考えているのか。</p>
職員	<p>eスポーツは、「あいさいスポーツクラブ」に相談をしたこともある。「初期導入に関し、どのようなものを揃えるのか」や「スマートフォンのできるのか、スポーツクラブではなかなかできないのではないか」などの相談をした経緯がある。</p>

委員	<p>e スポーツを高齢者向けに行うようなベンチャー企業もあり、ベンチャー企業を呼んでくるにあたり、そのような企業とコラボしながら空いた施設を使ってみるなどの方法もあるかもしれない。他の自治体では、高齢者を実際に集めたe スポーツのイベントを実施して、触ったこともない方が触ってみると意外と面白かったという話もある。そういうものを通じて若い方とコミュニケーションを取れることも事例としてあると聞いているので、検討されてはいいかと思う、申し上げた。</p>
議長	<p>e スポーツや農福連携の話など、まだまだ取り組まなければいけない課題がかなりある。「まち・ひと・しごと創生総合戦略」も適宜見直していく必要があるということが今のお話でよくわかった。</p> <p>基本目標3の施策3-4「次世代の愛西市民を育む」の中に、「次代を担う世代との協働による地域課題解決提案」が項目としてある。この中で清林館高校でも3つの地域課題解決に向けた「愛西市活性化プロジェクト」に取り組まれているということであるが、愛西市と一緒にやろうとしている時に何かネックになっていることがあれば教えていただきたいが、具体的にはどんな取組をされているのか。</p>
委員	<p>細部まできちんと知り得ていないということが正直なところであるが、プロジェクトは非常に良い効果を表していると思う。子どもたちが政治や地域といったものに、なかなか興味を持っていないのではないかという話を色々ところで耳にするが、ここ数年、ご協力いただき、生徒の指導をしていただいたおかげで、地域などに目を向ける生徒たちが増えてきたと強く感じている。</p> <p>そして、何よりも高校生が提案したことを実際に愛西市で実践していただいていることが市民の方にも大きな影響を与えたと思っている。見守りステッカー製作の件で、高齢者の方が救われたという話も実際にあった。ただ、学校という場は限られたところもあり、市役所でも限られた部分はあるかと思う。その垣根がそれぞれ低くなると、もっと活性化していくのではないかと思うため、お互いに妥協点をもう少し探っていく必要があると感じている。</p>
議長	<p>各高校側と市のマッチングの仕組み、地域とのマッチングの仕組みというものをもう少し整備していく必要がある。それぞれの担当教員と各課の有志とで結び付く場合も多い。</p> <p>高校生が地域のことに目を向けることは、最終的には地元定着につながっていくと思うので、長い目で見ていく必要がある。</p>
委員	<p>観光ガイドは高齢化が著しく、どうしても平均年齢が高いので、高校生くらいの方に協力していただきたい。若い世代が地域に根付くためには、地域の良さを知っていただかないといけないと思う。</p>

	<p>昨日もお一人、街道等を案内させていただいたが、その方はもっと若い方にも観光ガイドをやってもらおうといいのではないかと言っていた。高校生くらいの方々に、愛西市にこんなに良い所があったのかということを知っていただければ、都会へ出ていくこともなく、この地域に定着していただけるのではないかと感じた。</p>
議長	<p>観光ガイドの件もとても重要である。いわゆる、シビックプライドというものである。</p> <p>市民としての誇りを次の世代に植え付ける時に、外部の人に子どもが地域の魅力を語っていくための学習をしていくことは重要なことであり、それを聞くことによって、地域の大人たちにもシビックプライドが醸成される。それは非常に効果のあることである。</p> <p>地元で教育プログラムを用意して、小学生、中学生に愛西市出身の高校生が探究のテーマとして教えることで、今度は大学受験に備えていくというような循環が地域でできれば、それに越したことはない。</p>
委員	<p>私は観光船のガイドをさせていただいているが、八開地区では小学校4年生になると観光船に来ていただいている。この間、小学校からお礼をいただき、「やはり現地を見ることが本当に大事であるとわかりました。」というお手紙をいただいた。観光船に乗っていただく、愛西市の水の勉強をしていただくなどの取組をしていただくことは大切なことであると感じた。</p>
議長	<p>総合戦略のK P Iについては、なお一層、活動が見えるような指標に改善していく、あるいは項目を追加した方が良いのではないかとという意見があったが、今の段階では、K P Iについては概ね妥当と認めることとする。</p>
委員	<p>3. その他</p> <p>（「流域治水施策集」について説明）</p>
事務局	<p>（次期委員就任依頼及び公募委員の募集について説明）</p>
市長	<p>いただいたご意見やご提案につきましては、今後、各課と共有し、市政運営に活かしていきたい。</p> <p>全国的に人口減少が加速しており、愛西市についても、この5年間で2, 200人ほど人口が減っている。各自治体は人口減少に歯止めをかけるために、様々な施策を展開しているが、どうしても各自治体の政策合戦のような様相を呈しており、非常に危惧している。</p> <p>人口減少や少子化問題は、国の大きな課題として全国で一斉に取り組む、皆様方と協力しながら難局を乗り越えていくことが大切である。</p>

来年度においても、国や県と情報共有しながら、様々な有効な交付金等を活用して、まちづくりを進めていきたいと思っている。

現在、道の駅等の改修工事もさせていただいており、来年度以降は藤浪駅周辺の改修も進めていきたいと思っている。これらの事業は、今だからこそ市の一般財源をかなり抑えて事業を展開できると思っているので、ご理解いただきたい。

また、愛西市は公共施設がかなり多く、老朽化が進んでいる。来年度、立田の旧保健センターについて、今後どのような活用をしていくのかということも現在、皆様方の提案をお待ちしているが、そういった提案で有効なものがなければ、市としては、取壊をして維持管理費の節約に努めていきたい。

立田の総合運動場については、愛知県サッカー協会より、この4月から改修工事をしていただき、人工芝グラウンドにし、維持管理も愛知県サッカー協会にやっていただけることになっている。我々としては、情報発信をし、民間の活力も入れながら、事業の展開をしているところである。

企業誘致については、企業側は雇用したいということで、ハローワーク等に積極的にPRしているが、なかなか市内の方の希望がない。製造業の方に人が流れているのではないかと懸念しているが、物流もかなり近代化をしており、IT等の機械化が非常に進んでいるということも聞いている。物流だから雇用が少しということも現在はないということも企業庁から伺っている。そういった情報をキャッチしながら進んでいきたい。

色々な課題がたくさんあるが、皆様方と、より良いまちづくりを進めていきたいと思っているので、ご理解、ご協力をいただくようお願い申し上げます。

以上で閉会とさせていただきます。

議長